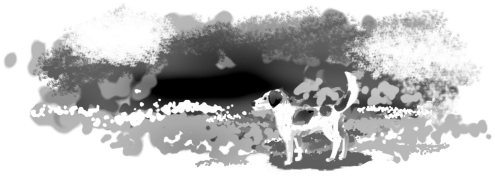
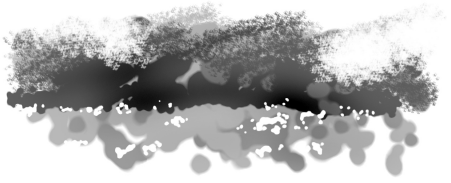


肴一途

宮坂静生



捕りてすは逃がす鰯を愉しまず
夕焼中鰯待ち 櫓灼け残る
仲良くもわるくもなくて鰯食ぶ
ぺちやぺちやと秋鱈を食ひ信濃人
鰯食べてものあはれがつきすぎし
たむらちせい
九万疋をつつきちせいと雲の中
荒涼と蛸噛み切れず途半ば



空港へ一夜穴場の穴子鮓
飛魚の背の紺青が真宮古島人
熱湯にしびれ蒙昧夏肴
鯉濃の骨もはもと姫宮祭
クープラン流れ螺旋の茅海の店
白南風や路地も飯場も満鉄も
盆供下ろしてわが南瓜讚へ食ひ
南沢道人(龍洞院前住職) 永平寺管長に
道元を慕ひきちきち飛蝗の眼

上原良司の死地沖繩

—— わだつみのこえ 今なお

〈沖繩忌幼子に海しかと見せ 静生〉（二〇〇六）

沖繩では入道雲を立雲と呼ぶ。青海原に立ち上がる夏雲に魅せられたのは、薩摩半島の知覧を訪ねた折であった。

私は、明治の正岡子規門の俊英俳人、松本出身の上原三川を研究していた。そんな関わりから、三川の孫にあたる上原良司の最期の地を確かめたいと、一九七四（昭和四九）年に知覧へ行った。

良司は四五（昭和二〇）年五月一日、特攻基地の知覧をたち、沖繩嘉手納湾のアメリカ海軍機動部隊に突入し、いわゆる陸軍特攻隊員として鮮烈に散っていった。二二歳である。

知覧では、のちの八五（昭和六〇）年に陸軍特攻隊の

必ず敗れる日が来る事を知ろう」などがカットされている。

全体主義の日本と対比し、米英を合理的な自由主義を持った国だと認めた上で、しかし、米英も勝利の暁には、権力国家となって驕りたかぶり、敗北するに違いないという。後の世の私たちは、朝鮮やベトナムでのアメリカ、フォークランド紛争でのイギリスの姿を思い浮かべることができるが、良司は自己の信念を吐露したものであると思われる。

私は、上記の手記の编者による改ざんを「戦没学徒上原良司の手記」と題し、信濃毎日新聞の一九八二（昭和五七）年八月一三、一四日付文化面で指摘した。そこでは、戦後占領下の連合軍への配慮があったにしても、社会情勢が変わった今日、遺書は正確な形で公刊するのが、非業の死をとげた戦没者への、生きている者の責任ではないかと記した。反響は大きかった。

戦後五〇年を機に『新版きけ わだつみのこえ』（九五五年版岩波文庫）は厳密なテキストクリティークがなされ、冒頭には良司の遺書に代わり「所感」が掲げられ刊行されている。

ところで、今年には良司の死から七五年たつ。大方、第二次世界大戦の記憶も薄れつつある中で、那覇在住の俳

資料を展示した知覧特攻平和会館が開館するが、その当時は何もなかった。私は、雲のかなたに去った良司を思い、無性に死地沖繩の入道雲が見たくなったのである。

戦没学生の手記『きけ わだつみのこえ』（八二年版、岩波文庫）には七五人、八一編が収められている。その冒頭に出るのが、南安曇郡穂高町（現安曇野市）大字有明出身、慶応義塾大学経済学部学生、上原良司の遺書である。他に「所感」が収録されているが、遺書はいわば「わだつみのこえ」の真意を代表する形だ。

遺書の文中「人間の本性に合った自然な主義を持った国の勝戦は、火を見るより明らかである」とは、自由主義国家米英の勝戦をさしているものと読める。明白な信念に基づき、情理を尽くし、全体主義国家日本の敗北を予見したような遺書に私は感銘を覚えてきた。同書の編者も同様の気持ちから冒頭に掲げたものと想像したのである。

ところが、のちに私は上原家に残る遺書の原文を見せてもらい驚いた。「わだつみのこえ」の遺書は細部を含め五ヶ所が削除されている。中でも問題になる一ヶ所は、先掲の勝戦のくだりに続き「驕れる者久しからずの例え通り、もしこの戦に米英が勝ったとしても、彼等は

人渡嘉敷皓駄が六月に出した句集『二月風廻り（ニンガチカジマ―イ）』から鮮烈な敗戦記憶がよみがえった。ここに沖繩人の立雲の句がある。

〈立雲は大和・武蔵の卒塔婆（ストゥーブ）よ 皓駄〉
大胆な構図の句だ。沖繩の紺碧な沖合に立つ入道雲が沈没した戦艦の卒塔婆とはぎりぎりの思いをぶつけている。大げさであるが、哀しみが深い。父を南太平洋プーゲンビル島で亡くしている作者には大海原が墓地であるう。

戦争末期、海軍が総力を挙げ建造した一番戦艦大和はアメリカ軍機動部隊の猛攻撃により四五年四月七日、沖繩戦突入特攻作戦に向かったまま九州坊ノ岬沖で撃沈された。良司が飛びたつほぼ一ヶ月前である。二番戦艦武蔵はフィリピン中部のシブヤン海の海底に眠る。

私はしばしば盛夏の沖繩を訪ね、そのたびに雲を仰いだ。皓駄の立雲詠に出会い、その背後に、今なお海原に、あるいは空中に浮遊するわだつみのこえがあることを感じた。

冒頭句は、沖繩戦への思いを馳せ、海好きな子どもたちがいつかそんな海の感触を知る日を願って掲げたのである。